

よみがえる首里城 特集

琉球風水師・東道里璃がナビ!

沖縄を代表する観光スポット「首里城」。正殿焼失から1年、完成するまであと6年もと、打ちひしがれる事なかれ。正殿完成を待ちながら、新しい首里城の魅力が「琉球風水師」の東道里璃さんがナビゲート! 琉球王府の最新都市計画と首里城に隠されたパワーとは? 読んでびっくり、行けばありがたい、新たな首里城との出会いの旅へ出かけよう!
(企画・制作 沖縄タイムス社営業局)

最強「王都」の謎探る



四神が幾重に守る首里

パワースポットは地理的条件を満たすことで生まれる。「四神相應の地」とは、パワースポットの理想的な地形の一つで、首里城は二重三重に四神に守られている。首里城に流れ込む気脈の発生源となる玄武は弁ヶ嶽。その背後にある西原から鳥尻にかけての豊かな樹林も首里城の背骨を厚く守っていた。青

東道里璃氏が考えた王都・首里と首里城に宿る琉球風水の景観を感じられる2コースを紹介します。まずは琉球の歴史書「球陽」コースからスタート。

ルート①向きに注目「球陽」コース



蔡温 土木治水に尽力した政治家

蔡温(さいおん) 岩出半島の政治家。1682年、久米村三十六姓の名前に生まれ尚健王に重用され三馬宮となる。政治家、羽地新翁の政策を継ぎながら、農村地域の活性化や山林資源の確保、王府の財政立て直しに力を尽した。天体の観測により日月を正確にし、真夏の射命を定めた。『御教書』『珍物語』など、政治・経済・射命に関する16の著書がある。1761年没。

ルート②財運の流れ「水巡り」コース



クネクネに鍵!?「蔡温」イズム集大成

四神を一望「東のアザナ」

首里城の東側に位置する標高140mの物見台「東のアザナ」=写真右は2020年2月から公開されたエリア。360度の眺望から首里城を抱き守る四神をイメージできるだろう。玄武は北、青龍は東、白虎は西、朱雀は南を守る神と思われ方も多いが、風水は本来、四神の位置を方向ではなく地勢から見る。首里城は、玄武の弁ヶ嶽があるため、それを背にして西(朱雀)を向き、南が青龍、北が白虎となる。300年前の風水師気分で、玄武・青龍・白虎・朱雀を探しに出かけよう。



柳宗悦も魅了

中国と琉球に交遊していた琉球には物も情も入ってきたんです。東道、首里城の風水の記録が登場するのは310年前。國の未開拓を憂えた首里王が、東北に三馬宮の一人、蔡温(さいおん)を招き入れ、その神聖な工事をサポートするようになった。正殿の完成も待たずして、首里の平和を促すために、首里城をすすめる新しい築き方で、東道、二百年来、二百年未だ変わっていません。でもよいか、自分の身、一人への生き方がいかに通いになり、未来に続く必要があります。そんな思いを込めて、首里城から得られたような空気感を、ハウリに変えることができるかもしれません。

城は折りの場

首里城は当時の最新の中国の瓦葺き瓦葺きだった。王城の風水思想に基づいた。王城の風水思想に基づいた。王城の風水思想に基づいた。王城の風水思想に基づいた。

青龍

所要時間13分 崎山御嶽と雨乞御嶽 遊歩道はまるで龍のよう!
崎山御嶽と雨乞御嶽は首里城の南、首里崎山町にある。周辺には遊歩道が続き、まるで龍の背の中のような。王朝時代に訪れた冊封使がこの付近で「中山龍嶽」と記録している。雨乞御嶽は國王自ら陛下、神女を率いて龍雨を祈った場所。自然に対して畏敬の念を抱き、国家の安寧を願った記憶が残る。御嶽の内側には聖城であり入らぬのがマナー。展望台からは、首里八景の美しい風景をのぞむ。



白虎

所要時間15分 虎頭山(虎瀬公園) 蔡温が「要の地」と記した地
虎頭山は首里城の北北東、首里赤平の北北に伸びる標高約130mの丘陵。頂上の岩石が虎の頭上に見えたことから名付けられたとされるが、沖繩戦で失われた。弁ヶ嶽から虎頭山へへと龍脈が貫き、特に虎頭の美しい樹林は気が旺盛で首里城の風水をよくサポートしていた。近くには自然美に囲まれた蔡温の家があり、虎頭山に登り御嶽を眺めたこと伝えられる。琉球王府のリーダークが何を、何を感していたのか。時間軸を超えて同じ場所に立ち戻ってみよう。



【参考資料】『首里の風水思想』、『首里地理記』の複製読本との複製、新島高子(鹿谷史博、巻号111、1999-03、鹿谷史博学会)、『王都首里見歩き』(古郡首里探訪会編、2016年新版出版株式会社)

琉球風水師・東道里璃氏に聞く

首里城周辺の環境はまさに四神に取囲まれた最高の土地です。左手に青龍、右手に白虎、前方に朱雀が位置する内側は、首里城の要の地です。その上では、当時の川、緑豊かな気候が、首里城の環境を整えていたことを案外、最も玉にすましていました。首里城を西側に延ばし、美しい山を背景に、首里城の都市と自然とが調和しています。首里城と自然との調和が、首里城の環境を整えていたことを案外、最も玉にすましていました。首里城を西側に延ばし、美しい山を背景に、首里城の都市と自然とが調和しています。

東道里璃(とうどうりり) 首里城に体験される王朝時代の伝統風水術を現代に伝える琉球風水師。新築住宅の建築設計からインテリアデザインまで。ウェブサイトに対応する風水空間プロデューサー。「琉球風水」を学び、心地よく美しい家を造り、住み心地よく空間に響かせるのがコンセプト。琉球風水アカデミー。風水師としての活動のなかで、多くのエネルギーの質にフォーカスして空間づくりをサポートしている。HP:https://longe.jp